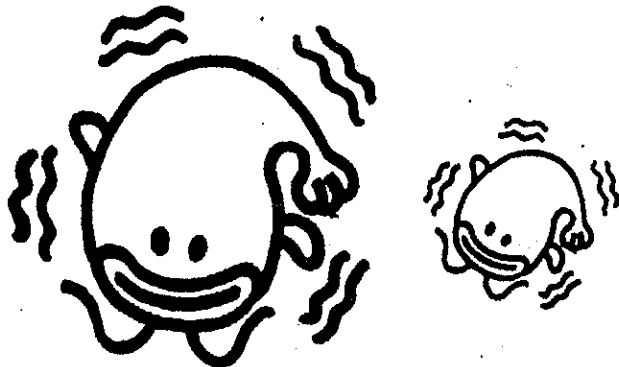


# 衣川台なまず通信

第5号



発行 衣川台自主防災部

発行日 2006年4月20日

## 『備えあれば憂いなし』

皆さんにはこんな経験がありませんか。夕暮れ時に、衣川台への家路の途中、ご近所の台所からプーンと漂ってくる、晚ご飯のカレーライスや焼き魚の香ばしい匂いを嗅いだことが…。僕はこういう時、よそ様の家庭とは言え、「家族(家庭)っていいな～」と思います。そして一刻でも早く我が家に帰りたくて、自然に歩みが早まります。

このような日常の一風景を皆さんに思い出して頂いた理由は、我々の日常生活が災害によって、一瞬にして奪われることを、再認識して頂きたいからです。どこに住んでいようと決して災害から逃れることは出来ません。また 残念ながら予知することも…。でも災害に対して、私達でも出来ることがあります。それは避難路の確保、被害に遭われた方の救出や、負傷者の病院への円滑な手配等の対策を講じることです。

平成 17 年に本格的な活動をスタートした衣川台自主防災部は、今後も災害を想定した安全対策に取り組んでいきますので、「備えあれば憂いなし」を合い言葉に、皆さんの積極的なご参加をお願いいたします。

部長 遠藤 竜治(自治会長)

## 防災部 18年度の事業計画

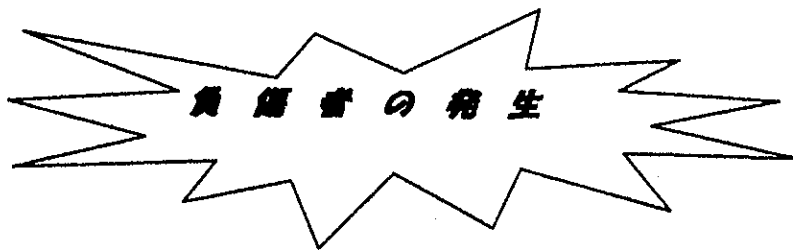
衣川台は、昨年、本格的な防災への取り組みを始めました。

2年目の今年は、次のような活動により、災害に強い街づくりを真剣に目指したいと思います。

- ① 多くの方がたに災害活動員になっていただき、全体的な災害意識を高める。
- ② ご家庭で「防災の日」を設けていただき、備えについて、話し合ってください。
- ③ 消火器の備え付け斡旋など、ご家庭での防災体制の強化を呼び掛ける。
- ④ 安否確認、相互助け合い体制を恒久的なものにしていく。
- ⑤ 防災部の防災資機材の充実と、取り扱い研修により共助(互助)の力を強める。
- ⑥ 防災訓練(安否確認訓練6月、自主総合訓練9月、学区総合訓練11月)を企画する。
- ⑦ 消防署の協力のもとで大地震時の震動を起震車によって体験していただく。
- ⑧ 衣川台防災パトロールを試行して、必要なら改善を計る。
- ⑨ 防災マニュアルの説明会を開催し、防災部の活動内容を知っていただく。

皆様方のご協力、ご参加をお願いいたします。

事務局長 軸丸 真行



## 1. 負傷者と救助者の安全確保

二次災害を防ぐため、周囲の状況を見て、安全に対応できるよう確認します。

また同時に、応援を呼び、救急車の手配等を依頼します。

## 2. 負傷者の観察 (意識、呼吸、脈拍、顔色、傷・出血)

意識はあるか？ 出血はあるか？

「大丈夫？」 「〇〇さん」と声をかけたり、肩をたたいてみます。

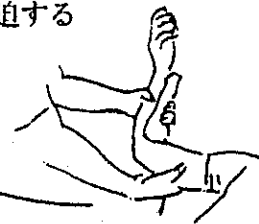
激しく揺るのは ×

出血があれば、清潔な布などをあてて圧迫  止血法

意識があれば本人の楽な姿勢  
なければ下図のような回復体位



清潔な布などを当て強く  
圧迫する



## 3. 気道の確保 舌が落ち込まないようにあごを上げる

## 4. 呼吸の確認 なければ 人工呼吸

## 5. 脈拍の確認 脈がふれない 心臓マッサージ

あとは、医師などに引き継ぎます。

止血法、人工呼吸法、心臓マッサージなどの技術は、一般市民のための講習会が開かれています。一人でも多くの衣川台の住民がこれらの技術を身につけて、いざというときのために備えたいですね。

衣川台自主防災部 救護班

## 防災ひと口メモ その3

### 「隣近所の助け合い」

阪神大震災では、ケガをした人のおよそ60%が、隣近所の人に救出されたと答えています。地震の後、自分や家族の無事が確保できて余裕があれば、救助活動や、消火活動に取り組んでください。

互いに声を掛け合い、倒れたものの下敷きになっている人がいれば、周りの人と力をあわせて、助け出してください。

この時、ガス漏れ、漏電、余震、には、注意が必要です。



[災害活動員を常時募集しています]

自分たちの大切な命や財産を守り、また災害に強い街づくりのため、たくさんの方の協力が必要です。是非一緒に活動しませんか。